

会議名	令和7年度第1回 藤沢市中学校給食検討委員会
日 時	2025年5月30日（金） 15:00～17:00
場 所	藤沢市役所本庁舎7階 7-3会議室
資 料	添付資料のとおり
議事	
	1～3については略
事務局	4 議題 （1）藤沢市中学校給食検討委員会について （資料に沿って説明）
委員長	平成23年から平成24年にかけて行われた中学校給食検討委員会の検討内容及び結果についてご説明がありました。 今回の委員の皆様には、現在の藤沢市中学校給食の状況を把握していただくとともに、今後の中学校給食の在り方を検討いただきたいと思います。 このことについて、質問等がある方はいらっしゃいますでしょうか。 忌憚のないご意見ご質問をお願いいたします。
委員長	もう既に2013年の時点までにいろいろご検討いただいていた、中学校の給食を実施するということは決まったということ。この会議はその方法論的なところを詰めていくことになろうかと思うのですが、実施方法等を検討するにあたり、ご質問でもよいので何かありますでしょうか。
近 藤 委 員	今事務局からのお話を伺って、中学校給食については今まで見えていませんでしたが、そういう状況や経緯があることがわかりました。 議会でもセンター建設することが取り上げられていたかなと思いますが、センター建設というのは、現状どこまでどのぐらい決まっているのでしょうか。 もうそこありきなのか、それも一つの選択肢となるのか、分かる範囲で教えていただければと思います。
事務局	用地は確保しています。建設することは検討段階です。なので、建てる時にどういう方式を建てるかという方針として、選択制か、全員制かで建て方が変わってしまうので、この会議で方針を決定したいと考えています。
委員長	土地の確保はできているけれども、子どもたちにとって中学校給食を選択制にするか全員制にするかによってもセンターのキャパというか容積等も決まってくるので、その方向をこの委員会で決めるということですね。
事務局	そのとおりです。 次の議題で説明する「（2）藤沢市の中学校給食の状況について」において、詳細に説明しますので、よろしくお願いします。
委員長	それでは、続きまして議題（2）藤沢市の中学校給食の状況について、詳細な説明を事務局の方からということですのでよろしくお願いします。

事務局	(資料に沿って説明)
委員長	ありがとうございました。 現在実施している中学校給食について説明がありました。このことについて、委員の皆様からご意見を伺いたいということですが、少し整理をさせていただきます。 今はデリバリー方式で全部やっているけれども、ニーズが増えてきて、調理業者の供給能力を超えようとしているということ、それから10年前に実施した検討委員会の最後のまとめで、食育も共通にできるような給食体制を望むというような部分も検討の際にあったこと、センターで給食が提供できるような体制を今から作っておかなければ、給食無償化の話も、政権なので交代してしまったらどうなるかわかりませんが、今の流れのまま進んだ場合、1日2日でセンター建設ができるわけではないので、そういった要因も含めてどういう方向性にするかをこの委員会で決めていく、ご意見をいただきたいという風に思います。 今日の会議では、決めるというよりはブレインストーミングのような形で進めます。ご質問でも忌憚のないご意見・お気持ちでも何でも自由にご意見していただいて、一つの方角に集約するというよりは、今考えていらっしゃることを出していただければありがたいです。
金 田 委 員	中学生の息子がいて、3年間給食にはお世話になっています。 スポーツをやっているのが好きですし、量も食べられますしスピードもあるので15分で食べられているようです。授業の関係で10分になってしまうこともあるようです。実際は食べきれないから頼まないということが多いようです。休み時間になっても食べていいよと先生は言っていると思いますが、みんなが食べないからもう食べないというところが実際のところのようです。 あと、やはり女子にとっては量が多いからお弁当の方がいいというのもとても多いかな、そこが一番よく聞く声かなと思います。おかずが冷たいことは、お家からのお弁当も熱々ではないと思いますし、ごはんと汁物は温かいので私はいいかなと思うのですが、試食会がもっと広まるとより良いと思います。中学校給食はあまりおいしくないという変な噂が回ったりとかもあるんですが、実際に食べてみたらおいしいので。 小学校の給食が良すぎるのでね、やっぱり残す前に減らせるのは子供たちにとって精神的によいかもしれませんが、お弁当では残さなくても、デリバリーは残すことが多くてやめたという女の子のお母さんも実際にいらっしゃいました。中学生でダイエットとか気にし始めて。本当はもっと食べた方がいいんですよ。栄養士さんも考えてくださっている量なので。本当に中学生の女の子のお弁当って小さくて。そういう現状を考えると、本当は小学校と同じような給食だと周りの目を気にすることもあまりなく、同じ状況で食を楽しめると思うところはあります。 あとは配膳などは中学校の時間を考えると、現実的に結構難しいなと思うのでどっちがいいかなって言われるのはとても親としても迷いますが、給食が全員になると考えると、大盛、普通盛り、小盛とかがあって、大盛は今もあるんですが、小盛は今はないので、小盛ができたらしかしたらいい方向に行くのかなという思いはしています。 ただやはり家庭で作らなくても良いのはとても助かります。給食の品数はとても多くてバランスも良い。家庭で作るとなるとやはり偏るし、冷凍食品ばかり

	になってしまうという保護者の声も聞きます。結論はありませんが、そのように思っています。
委員長	金田委員からのご意見は、今の中学校給食は家からの弁当より品数も多いし、栄養価も高いしおいしいということですね。
金 田 委 員	はい、小学校のような今の給食が食缶方式で提供できたらもっといいと思います。
委員長	ご意見としては食缶方式に向いている。
金 田 委 員	でも全員制になったらいいとは思いますが、現実的に実現できるような数なのかなって、子どもが減ってきたらできるのかなって、この数字を見ながら思いました。
委員長	全員制で食缶方式は無理なのか、事務局いかがでしょうか。
事務局	資料５の最後から２枚目をご覧くださいませでしょうか。全員制の場合、２番目が今回新たにセンターを建てる場合、上限で６０００食までセンターで調理できる。そこはランチボックス方式か食缶方式かはどちらも対応できます。あと、ランチボックス方式は現在調理委託で４０００食は提供できているので、それと合わせれば全員制はできると見込んでいるところです。 ３番目、食缶方式にした場合に調理委託してる業者が食缶方式に変更できるかといったら、変更できません。調理業者はランチボックス方式しかできないので、４０００食の学校のところはランチボックス方式しかできない。６０００食は食缶ができますということになります。 ４番目が、６０００食を食缶にしてそれ以外のところは、自校式の調理場を作って、親子方式や兄弟方式という言い方もするんですが、他の学校にも配送することを４０００食分することになります。 ５番目は完全に全調理場を学校に作るか。 ６番目は食缶方式でもう一つさらに６０００人分対応できるセンターを建てられる土地をどこかに新たに探して、食缶方式で提供するということになります。結論としては、全部を食缶方式で提供しようとする、学校に調理場を建てるか、もう一つ給食センターを建てるかしないといけないというのが現状でございます。
委員長	今のデリバリーだとだいたい５０００食弱、何とか賄えている。
近 藤 委 員	いろいろな視点で考えなきゃならず、とても難しいなと思いました。例えば選択制か全員制かも、全員制となれば、全員制ができる方法を考えていくしかないんだろうと思います。選択制か全員制かの話や今の中学生の様子を聞くと、保護者はきっと全員制で給食を食べさせたいと思います。しかも小学校が当たり前で給食ですし、食べないという選択肢がないから、あるものをどうやったら食べられるか、アレルギーや宗教的なことなど提供が無理な場合のみの対応です。 そのため、中学校においても全員制であれば、そこでできることを対応するしかないと思いますが、私の中でもどっかというまで決めきれません。 理想は自校の全員給食ですが、調理員さんのことや配膳に係る時間や場所など、現実的には難しいです。

	他市の状況を見ていくと、横浜や相模原など大きな市が来年度から全員制になっていたの、これは何か無償化を踏まえて考えているのか、今給食業界の傾向というか動向はどのようなものなんでしょうか。わかることがあれば教えてほしいなと思います。
事務局	他市というか政令市の場合、全員制の給食にするのは市長の公約によることが多いです。そういった公約を掲げて当選して、実現しているというところでは。委員おっしゃる通りでその前に無償化を見据えて全員制にしている可能性もあると思います。無償化をすでに実施にしている政令市もあります。政令市2市、名古屋と新潟以外は全員制なので、政令市のなかでやっていないと目立つので急いで方針転換してやっているところもあるかもしれません。
事務局	法律の説明の中で、給食の目的というのが心身の健全な発達と食に関する理解というところで、子どもたちの身体作りという教育的な部分が元々なんですけれども、昨今の政治的な事情と言いますか、政治家の方がよく掲げる子育て支援というのがありまして、その中で子育て支援的な側面で、もともとの給食に入っていた目的ではないんですけども、子育て支援としての目的が加わり始めているというか、トレンドになっているということはあると思います。
東海林委員	中学校現場からお話します。今の学校と何校か回ったときのことを思い出しながらという感じなんですけれども、善行中学校なので、先ほどのスライドの通りで、4時間目が終わってから給食の準備まで10分、食べる時間が15分、15分間の昼休みの5分後に5時間目という形です。そもそも移動教室で子どもたちが5分後に手も洗っていただきますまでするには間に合わないということもあり、少し前から準備の時間が10分になりました。 でも10分丸々使わないと間に合わないみたいな学年やクラスは珍しいというか少なく、7分とか6分ちょっとぐらいで、もういただきますを始めるっていうクラスの方が多いというのが現状です。 それで始めて実際ご飯食べてるのが15分という中で、おっしゃる通り、特に女子ですが食べきれないというか、ちょっとギリギリ最後かきこんでみたいなのは現状です。ただその後の5時間目6時間目とか放課後の一斉委員会とか部活動とか、その後に様々なことが控えているので、その中で自校式だったりとか、食缶の形でっていうふうにすると、とてもその後の時間がすごく組みづらくなるだろうなっていうところと、あとそもそも学校の広さ的に、安全に配膳までいけるのかなっていうところが正直すごい不安になります。 一番遠い所だとどこまで持ってきてくれるのか、例えば今のところだと反対側の校舎に持っていつてくれるのであれば良いですが。エレベーターが片方の校舎にしかないの。そこからましてや1年生が反対側の校舎から一生懸命運ぶのかという部分を考えると、とても怖いというのがあります。 ついこの間ニュースでもエレベーターが止まっちゃって地域の方や保護者の方が連携して配膳手伝ってくれてすごいうれしいみたいな話があったんですけどそれも賛否あったので、そういった諸々を考えると中学校現場で自校式とか食缶でとなると結構厳しいんだなと思います。 ただデリバリー式でも喫食率が上がってるのがわかるし、生徒も美味しいと言って食べています。余らないというか苦手とかで余らせるとかでなければよく食べていると思うので、そういう意味では食缶とかでなく今の形でも良いと思います。

	今の給食の内容であれば無償化になったとしても建物だったりというところの大きな変化はなくてもやっていけるのかなと思うので。それの方が現場的にはありがたいのかなと思います。 女子の弁当の小ささはいつもすごいびっくりする。いただきますして5分後くらいにもうお喋り始めて、食べた？と聞くともう食べ終わってますとか。よくあります。もっと食べて欲しいなと思うので、食缶があつたら確かにいいなと思うんですけども、現状他の業務とか、規模とか、考えるとつらいところがあるのかなというのは現場としては思います。
委員長	善行中学校の実情を踏まえた話でしたけれど、時間がいろんな壁になるだろうと。食べる時間。
東海林委員	そうですね。勤務したことがある他の学校のことも考えますと、今の自分の学校は小規模に当たると思いますが、大規模校になればなるほどどこから持っていくかによっても本当に複雑だと思いますし、距離も増えると思う。それによつての差はすごくあるだろうなと思うので、そうするとますますそこをどうやってクリアしていくかなっていう、配膳員さんやスタッフの方が教室の前まで持ってきてくれるのか、エレベーターの前までになるのか、そういう一つだけでもたぶん違ってくるだろうなというのはあります。
委員長	藤沢市にある19校にはそれぞれの規模によって食べ物が届く場所、作られる場所、置く場所、食べる時間の問題が常にあり、どういう選択肢を選んだとしてもよく考えていかないと実施にあたり混乱が大きいということでしょうか。
東海林委員	そうですね、だからこその他の方式だと日課を見直さないといけないところが大きい。そうすると食べる時間はとか、放課後活動できる時間は何時からになるのかとか。今でだいたい50分授業で3時40分から45分からとか。それくらいなので、そこからさらに4時すぎが終わりってなるとそこから部活動となると、冬なんか本当に何もできないよっていう。何もできなくなるんじゃないのかなっていうのは思います。
委員長	他に何かご意見は。
中澤委員	栄養士の観点からですけれども、選択制だと食育の取り組み方として、中学校の方は今30%から40%くらいしかいないとなると、なかなかデリバリー給食を通じた食育の難しさはある。 女子生徒に対して、もっとたくさん食べなきゃ駄目だよっていう指導をしたくても、デリバリー給食だと難しい。デリバリー給食って中学生に必要な栄養量を満たすように作っているの、本当だったら給食で提供するぐらいは食べてほしいんだよっていう指導は全員が食べていないからなかなかできないし、担任の先生方もそういった指導をお昼の時間にできないっていう現状があるので、方式はどういうふうになるかはこれから検討しなきゃいけないんですけれども、全員喫食になると、食育も進めやすい。 量はこのくらい必要なんだよとか、体格とかもあるので、仰っていたように大盛と普通盛りしか今ないので小盛とかも作ってもらえれば、体が小さくてなかなか食べきれない女子とかもいるので、食べればある程度確保できるという話もできますし、食育をしっかりしていくということを考えたら、全員喫食が望ましい。全員喫食にした中でいろんな栄養や量の問題っていうのを、栄養教諭

委員長	が行って話すこともできますし、担任の先生が共通で1年から3年まで給食の時間にこういう話をしてほしいというのを、今中学校担当から放送原稿を送っているの、そういうものを作って話してもらうとか、全員喫食になるとそういうことができるので、選択制ではなく全員喫食にできるとよい。 食育の生きた教材が給食と言っているの、給食を食べる子と食べない子が出ているのは、教科書を持っている子と持っていない子が出てきてしまっている状況になるから、食育基本法が2005年にできて20年たちますけれど、浸透させるためにも全員給食というのが前提でないと。そこでいうさっきの3点、食育をしたいという部分と作る側のキャパの問題と政府の方針という3つの考えがありましたが、その一つが欠如してしまうと。
副田委員	小学校の立場から見て、小学校での給食はとてもありがたなと思っております。栄養バランスですとか、食育もすごくありがたい。 今は国際教室の担当をしていまして、外国につながる子供たちと関わっていますが、聞いているとちゃんと朝ごはんを食べさせてもらったかな？なんていう子も、外国につながる子だけではなく、クラスを持っている時にも、朝から疲れきっていて、給食までもたない、お昼まで持たない子が小学校の現場でもよくいて、大丈夫かなと思うことがあって、学校で食べさせるわけにいかないんだけどそういうことを気にしているのはどこの学校にも、中学校にもいると思います。 そういう子どもにとって、給食がすごく生命線になっている。朝を食べていないお子さんにとっては。 中学校の選択制を続けていくことは、いろいろ事情があって選択制でここまで来たんだろうけど、このまま続けていくのはそういうお子さんがいることが分かっている中でちょっと厳しいのかな、と思っています。 中学校ってすごく体も大きくなる時期でそれこそ洋服のサイズとかも変わっていきますし、栄養バランスを含めてある程度のものを保証することは義務教育の中で保障されるべきではないかなと個人的には思います。 その中で方式というのはいろいろ、日課表ですとかクリアしなければいけない課題はかなりあるとは思いますが、その中で中学校の職員にも理解を得られるようなアプローチが必要になってくると思います。いきなり変えますとなっても現場は混乱すると思うので、やはり学校給食課の方でアプローチというのは今後必要になるのかな、方式によっては。来年に変えますは絶対無理だろうし、そのために今考えを示しつつ、子どもたちにとって良い方向に進めたいという風に話したいと思っています。
委員長	他にいかがでしょうか。
近藤委員	今のお話を聞きながら思ったのは、学習指導要領が変わって、子どもたちを主語にして考えることが増えました。 今、実際に中学生に対して、もしこのデリバリー給食が全員制になるとどうですかというアンケートをとるなど、今の子どもたちが思っていることを把握できるといいと思いました。
事務局	アンケートについては次の議題で説明します。

東 海 林 委員	さっきの話でもいいですか。先ほどの話の、副田さんの話とかを聞いたりして、小学校って、給食の時間に食育ということをするんだということを知っていて、驚いたところなんです、自分としては。 自分としてはもう昼食の時なんて、ご飯を食べながら友達とワイワイ喋ったりとか、放送を聞いたり、ある意味一つの休憩時間に近いところで行事があると、行事の説明をご飯食べながらしたりですとか。他のことプラスアルファでやっていたりだとか、多くはそういうことをしないようにしてるんですけど、ご飯を食べる時間を減らすことになるので。しないようにはしていますが、ほとんど給食の時間に担任から食べ物の話をするようなことはしたことがないし、する時間もない。なのでそういうのが小学校ではあるんだっていうことにびっくりした。食育っていう形で言うのであれば、総合の時間とかで体育館に学年のみんなが集まって、栄養教諭の先生から話を聞くとかがほとんど。あとは放送の委員会の子が、今日は〇〇だからこういう食べ方で、みたいな給食のことを話したりだとか、そういうことを中学校ではしているかなくらいで、ちょっとその差を小学校と中学校では差をすごく感じます。 中学校でそれを全部やってねっていうと、中学校教諭側としてはどうしたらいいかな、何を話したらいいんだろうとか、混乱があるなって思いました。
委員長	近藤先生のご意見は少しあとにさせていただいて、今の東海林先生のご意見に対して、中澤先生何かありますでしょうか。 給食の時間での担任の先生の対応が大変になるんじゃないかという話ですが。
東 海 林 委員	少なくとも急に変わるんじゃないかなければ何をするとか、スモールステップを踏むとか、あと少なくとも現場任せにならずにちゃんとこの話をしてくださいとか、そういうのとかがある程度ないと多分できないので。先生によってやるやらないが出てきてしまうかもしれないのでっていうふうには感じます。 実際その時間を利用している先生方もいらっしゃるの、そこでの折り合いをつけなければならないかなっていうのと、給食食育がこうありたいからこういうことを伝えていきましょう、という形を示すことが、現場も混乱なく進むのかなと思います。
委員長	おそらく栄養教諭の先生たちもいきなりそういうふうな指導をしてくださっていう話を持っていくわけではなく、相談しながらという部分になるので、そこは課題としてそういう方向で進めるのが食育としていいと私も思うので、コミュニケーションを十分に図りながら。 現場で混乱や戸惑いが先に走るようになってしまうと良いものもそこでストップしてしまうから、そういうことが起きないように栄養教諭の先生や藤沢市の関係者と現場の先生との接点を取りながらコミュニケーションを取っていくことが大事かな。どういう形に方向が向いたとしても必要になってくるとは思います。
中 澤 委 員	小学校では毎日の給食の時に手紙を付けていて、今日の給食は、こういう献立で、この食材が入っていますとか、地産地消で藤沢産の小松菜を使っていますよというようなお手紙をつけていて、それを教室で担任が読んでいるクラスとか、日直とか読んでいるクラスとか、回覧で回すクラスとかあるので、そういう形で栄養士が作ったものを教室でみんなに読んで指導していただくとか、補足をしてもらう。今日は藤沢産のこういう食材が入っているから、おいしいから食べてみてとか。先生の一言って、中学生はちょっとわからないんですが小学校は結構先生が言うのと嫌いでも食べちゃうみたいな、頑張っって食べようと思うんです。

	そういう形で、給食についての一言とか手紙は中学校は放送で読んだりしているので、そういうのが月に3枚か4枚ぐらいしかないのが、もう少し回数を増やすとか、教室でお手紙に対して、何か一言加えるとか。 先生が中心になって食育をバンバンやっていきたいというわけでもなく、毎日食べている給食に対しての栄養のこととか、放送でこういうことを言っていたから、この量が必要だから多いかなと思っていただけどみんなに必要なんだねとか。この野菜は藤沢産だから残したらもったいないねとか、 そういうふうに声掛けをしてもらえるだけで全然違うので。 担任の先生が何かを考えて何かをやってもらうとかではなくて、栄養士とか栄養教諭が作ったものをみんなに心に響くようにちょっと担任の先生に手伝ってもらうような。そういうことが今までは難しかったんですけど、全員喫食になって、お手紙を頻繁に出せるようになれば、先生にも声掛けしてもらいやすくなり、子どもたちの心に響きやすくなる、浸透しやすくなる。 全員喫食で同じような食育をすべての中学生にという思いは、私としてはもちろん、食育の観点からもしていきたいと思います。
委員長	一言の言葉を添えていただくだけで、本当に1秒もいらない。風土作りというか、雰囲気作りがしやすいということ。タイトな時間、子どもたちも時間が迫っている中、ましてや先生たちも進めないといけないという状況というか現場だというのは推測できますが。難しいですね。 そうしましたら次のテーマのアンケートの実施にも関連することになると思うんですけども、その話をお願いします。
事務局	(3) アンケートの実施について
事務局	(資料に沿って説明)
委員長	ありがとうございました。 これは期限はまだ。設けていただいてご意見を伺うようでしょうか。
事務局	本日ご意見いただけましたらいただいて、持ち帰っていただいて6月6日までにご意見を教えていただいたら大変ありがたいです。
委員長	ということです。先ほど校長先生が聞いたかった内容が入っていますでしょうか、ご意見いただけたら。
近藤委員	なかなか難しいなと思いつつも、この7番の給食を選択できる方式についてどう思いますか、とありますが、自由に選択できるのが良いってあったら多分一番を選ぶ人が多いんだろうなって思いました。 ただこの場で今日お話を聞いていて食育を大事にするっていうところがある中、全員制っていうものをこのタイミングでシフトできるといいのかなって思ったり、こういうアンケートを通して、やっぱり選択制がいいのかなってなるのか私自身迷うところもあるんですけど、理由を書くところがあったりすると、またもう少し考えが見えてくると思ったりしています。 正直に言うと、小学校の給食のように全員に給食が提供されたとしたら、逆に困ることやこうしてほしいなって思うことってありますか、ぐらいのことを聞けたらいいのにな、と。でもそんなにダイレクトなことを聞くのはなかなか難しいから、どれくらい思いを引き出せるものにするか。ちょっと考えたいです。

委員長	アンケートも本当に選択肢をいくつ用意するかと、使う文言と、自由記載をどれくらい盛り込むかによってずいぶん変わってくる。難しいところです。
東 海 林 委員	その質問の中身とかどこまで答えられるアンケートにするのかでも難しいなと思ったんですけど、8番の食缶方式か弁当箱方式かっていうところに関しても、例えばですけれども食缶方式がいいとか弁当箱方式がいいとか偏った回答になったときにその声ってやっぱり大きいと思うんですね。 じゃあその声をもとにそっちの方向性に話を進めていくようになったときに、でも日課表の問題とか、そういった諸々も含めて、このアンケートに理解して答えていないっていう方も実際出てくると思います。 それこそ食缶方式のところではやっぱり中学校の日課だと苦しいということが大きい。小学校の給食が美味しい、懐かしいな、食缶方式がいいなって挙げたけれども、結果として時間割だったり、何かがすごく変わる。たぶん後になってあれ？っていうふうになる。そういう生徒や職員もいると思います。そこまでのことを設問に書いてもいいかなとも思いつつ、でも子どもにそれを言ったところでたぶん子供は混乱をするんじゃないかなと思う。 なのでこれを同じものを職員にも生徒にも全く同じものを渡すことはなくて、質問項目は一緒でもいいと思うんですけど、児童生徒、職員、保護者はそれぞれに補足の説明や理由をつけてもいいのではと考えたところです。 その分手間もかかってしまうので、ご負担で申し訳ないなと思うんですが。生徒と教員では視点が違うと思うので。
加 瀬 委 員	私も小学校給食はおいしいし温かいし、比べると食缶方式だなんて。実際に食缶と出てきた時に、例えばクラス単位で配膳をするととなると、クラス担任がない状況がある。子どもたちだけでお昼を食べているところもある。
委員長	選択肢の順番もすごく影響しますね。3段階にするか5段階にするかでも変わってくる。 他にアンケートの内容について何かご意見はありますか。
副 田 委 員	今のご意見伺ったところでよろしいですか。 今のこれ、1番の例えば、食缶方式になって、生徒さんが例えばですけどもう一段掘り下げたあたりでつかんだ方がよいのかなって思ったんですけど。いかがですか。
中 澤 委 員	全国的にも食缶方式で中学校給食をやっている方がすごく多いんですね。センターか自校式かは市町村によって違いますけれど。なので食缶方式でできるカリキュラムというのはたぶんあるのではないかと。他の神奈川県はけっこう中学校給食が取り入れてなかった市町村が多いので、あまり知られていないのかもしれないんですけど、川崎なんかは数年前に市長の公約で全校センター方式の食缶方式の給食に変わったんですね。 相模原も今度取り入れますし、神奈川県内で食缶方式の全校喫食を取り入れている学校もありますし、昔からやっている、西湘地区なんかは昔からセンター方式で、食缶の給食をやっているのです。 どういうふうなやり方でやっているかというのを聞いてみると、藤沢でもできる可能性があるのかなと思います。 取り入れると決まったときに生徒が給食室とか配膳室に取りに行く方法もあるし、配膳員さんがクラスの前まで持ってきてくれる可能性もゼロではないので、決まったときにそこの交渉をしていくのはたぶんこれからできる余地はあるのではないのでしょうか。絶対に食缶方式は無理だというのではなく、どうい

v	うふうなやり方でできるのかという方法を詰めてから考えていけるといいのかなと思います。
東 海 林 委員	学校ひとつをとっても建物も違うと思うので、距離やデータを取って、どこから持っていく形が通例なのかとか、そういう資料があるだけでも多分知らない中学校教諭からすると少なくともハードは違ってくるのかなと思います。アンケートと一緒にそういう資料があるとありがたいなと思います。
委員長	千葉県で自校式でさらに給食 AB と選んで全部自分たちで持ってくるという、それが定着してスムーズに決まった時間にできるというところがあったと思います。そういうところもあるので、今の神奈川の実情に近いケースがわかればありがたいなと。藤沢市の方で情報収集していただきたく、お手間になってしまいますが。
柳 澤 委 員	私は中学校時代どうだったかなと考えると、福岡だったんです出身が。 中学校時代は給食でした。給食だったので、関東に来て、お弁当だのデリバリーだの選択制だのという話を初めて聞いて驚いています。 給食が栄養源だったのがすごく記憶にあって、休んだ日とか他の子が休みにパンを持ってきてくれて、そのパンでしのいだというのがあったので、デリバリーとか選択制とかじゃなくて、貧困家庭にとって給食があることがどれだけありがたいかっていうのをちょっと思って、全員制の給食をやってほしいなと思って思います。 アンケートに関しても、週の半分昼食に何を食べていますか。市販のおにぎり、パン、いろいろあるんですけど、そもそも食べてない子ってどれくらいいるのかなっていうのがある。④の味はおいしいですか、食べてない子はという答えになるかっていうのはちょっと思いました。
委員長	おいしい、おいしくない、デリバリー給食を食べた人は答えるようになる？
事務局	分岐するようになっていて、①で1を選んだ方は②④⑤⑥を回答してもらいます。①で2、3、4を選んだ方は③を答えてもらうようになります。
金 田 委 員	⑥までは今の給食どうですかという調査だったと思うんで、答えていくと思うんですが、⑦以降に答えるにあたって、メリットデメリットが分からない中で答えるのはアンケートを取る上でもったいないかなと思うので、ご意見であったように給食方式ごとのメリットですとか、課題だったり、一緒に添付してもらった方がより検討委員会にとっても有意義な結果になるのかなという感じがしました。
委員長	メリットデメリットの対照表のようなものがあると良いかなと。
金 田 委 員	子どもたちは食べておいしいとかだと思うんですけど、保護者の方にとってはそういう視点を持ちながらアンケートを答えてもらった方がいいのかな。
事務局	資料5の3ページ目のような、方式による違いの表を見せながら、こういうイメージだよっていうものがある感じでしょうか。例えば、日課表の見直しというところで、お昼時間で配膳をしなきゃいけなくなるとか、部活の時間が少なくなる可能性があるとか、朝読書の時間がなくなる、とか、デメリットを並べるイメージでしょうか。

東 海 林 委員	部活動と放課後の時間の最終下校のところは可能性としては確かにあるのかと思いますけれども、近年部活の地域移行というところで、藤沢市は少なくとも平日は2時間に変わってきている中で、本当にさらに短くなるのか、さらに2時間を確保しなきゃいけないのか、そこがもめないといいなと思う。そうしたときに可能性論なものを並べていったものを基にアンケートを取るのも、どこまで見るのかなってというのがちょっと怖いと思っていて、このアンケートを今みたいに改良を加えたものを6月末から7月頭でっていうふうに取りなればならないですかね？ けっこう急なっていうか、いろんなところに検討したり資料を集めたりしていただくなら、時間的にきついんじゃないかなというのは思うんですが。 確かなもので、確かな情報で子どもに保護者や職員にも伝えていかないと、前のアンケートではこうだといっても、変わったんだったらみたいなどころもありえなくはないのかなと。
近 藤 委 員	今の中学校の現状や働き方改革の流れの中で、日課が伸びるというのは、考えられないと思います。今の形の中で、無理なくできる形しか受け入れられないだろうなと思います。また、給食のアンケートについても、今まで丁寧に取り組んでくださった結果を、デリバリーの内容に反映されたから喫食率が上がってきたのだと思います。 今回のこのアンケートについては、これまでのアンケートと趣旨が違うので、その目的を明確に伝えた方がいいのではないかと思います。 例えば、中学校給食の方法を検討していますとか、選択できる方法と全員が給食を食べる方法と、どちらがいいですか等、みなさんの意見を聞かせてくださいとか、このアンケートを取る目的があると、いいと思います。 また、給食と聞くと、今の中学生はデリバリー給食が浮かぶのですか。私は給食と聞くと小学校の給食をイメージします。①は（デリバリー給食）って書いてありますが、あとは給食とだけ表記されているため、デリバリー給食とは違うものをイメージする人もいるかもしれません。
加 瀬 委 員	六会中だと給食っていうと子どもたちはなんか小学校の方を考える子もいるかもしれない。保護者にも伝える時に難しいので、デリバリー弁当っていう言い方をあえてします。公にするわけじゃなくて、コミスク関係で6年生とお話する時があったりとか、教頭先生とかと話すときもデリバリー給食っていうとなかなか伝えにくくて、デリバリー弁当か自分の家からの弁当。同じ弁当って言い方をした方が伝わりやすいから、お話する時にはそのようにしています。 給食とお弁当というイメージがあるので、子どもたちには伝わりにくかったりがあるのかなと思います。
委員長	弁当か給食かっていう項目がつながりにくいということですね。 これのスケジュールというのは後ろの方の検討スケジュールに引っかかってくるんですよ。
近 藤 委 員	このスケジュールで聞ける設問と、そうではない設問があるので、現状を知りたいアンケートは先に取って、もう一步踏み込んだものは後にするなど、分けて行うのもどうかと思いました。目的も明確になりわかりやすいと思います。
委員長	前書きに何か説明を入れることは可能ですか。どれだけ情報を開示すべきなのかというのはあると思うんですが。

事務局	センターを建てることを検討するというのはもう公になっていることですし、そこを前書きに取り出してしまうともうセンター方式というのが中心に考えているというのが見えるよりは、フラットにこの中のどれなのかを聞くために、皆さんの望むのは何かしらというのを聞くためにやりますよということになるうかと思います。
委員長	前書きのところにちょっと知りたいというようなことを。そこが重要になってくるといえるか、決める具材になるかというのが委員の意見ですが。
事務局	そうですね、一度選択肢の立て方ですとか、あるいは分岐のしかたですとか、文言なんかもご意見いただいたことを一度整理させていただいて、なるべく同じ見え方のものでいったんちょっとお示しをさせていただいて、その中でまたご意見いただいてっていうことで。 実施時期も一度含めて、今日のところはお預かりさせていただいてよろしいでしょうか。 5 その他 次回 7 月 3 0 日（水）午後 2 時 以 上